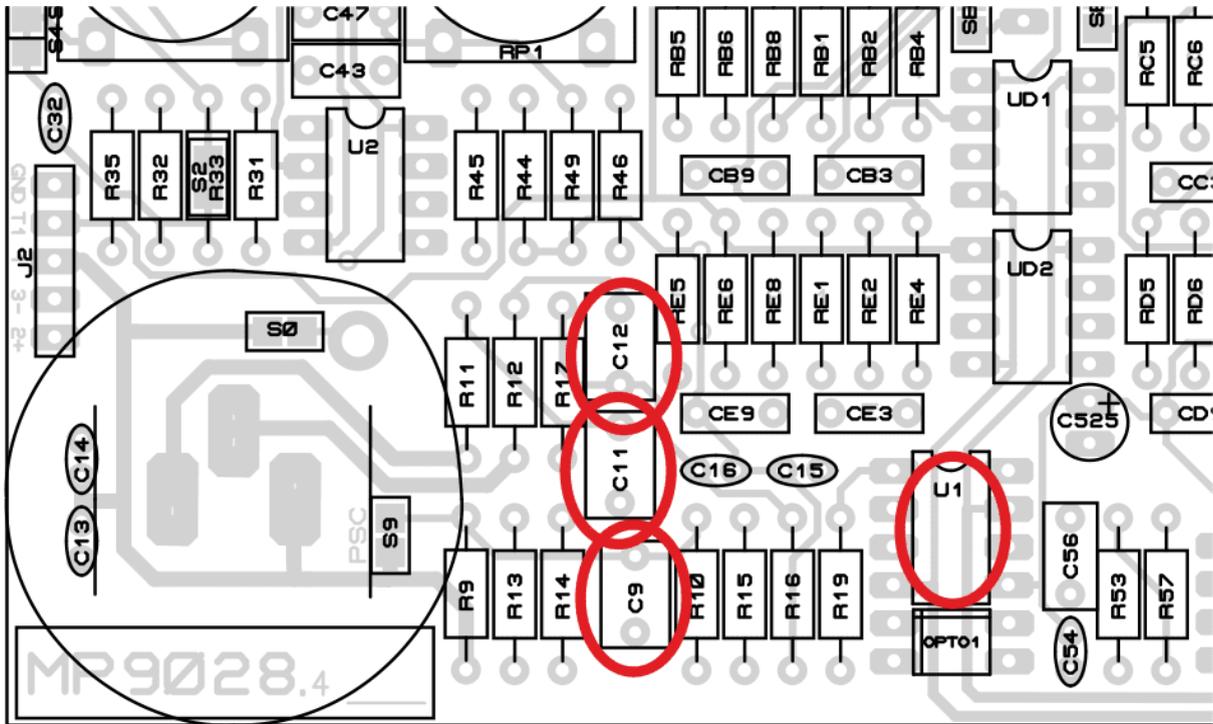




PSIモニタースピーカー メンテナンス

コネクタにXLRを入れるとノイズが出る場合、入力端子にかかっている電圧(直流)を測る。
多分 -4v -> 0vに減っていく。これは THAT 1512 が壊れている可能性が大きい。



That Corporation - THAT1512P08-U - IC(U1)

HAT1512 は、PSC 信号として誤って解釈された DC を送信しています。

THAT 1512 のリード nb 5 とリード nb 6 の間の DC 電圧を測定することで、THAT 1512 の出力の DC 電圧を測定してみてください。

- V1 + と書かれたパッドの +/- 18 V 電源の DC 電圧も測定してみてください。

A14M

すべての完成品は個別に校正されています。トランスデューサーまたはアンプを変更する必要がある場合は、元の校正に従ってボックス全体を再校正します。

無響室を使用せずに製品のツイーターを校正するには、モニターの 1 つが校正済みで、もう 1 つが校正解除されているモニターのペアの場合です。

最適な手順は、校正解除されたモニターを校正済みのモニターに合わせることです。

- 校正済みのモニターを、できるだけ残響の少ない部屋 (広くて吸音性の高い部屋) に配置します。

- ウーファーの正面約 10 cm で、ウーファーの SPL 対周波数スイープを測定します (技術データで定義されているように、音響中心から 1メートルのところで基準 SPL 対周波数を測定しますが、無響室の外では、ツイーターの近くで SPL を測定することで、残響の影響が少なくなります。)

これでは「現実的な」周波数応答は得られませんが、ツイーターだけをキャリブレーションする場合は、1メートルの場合よりも 10センチメートルの場合の方が部屋の影響が少なくなります。





- キャリブレーション解除したモニターを、キャリブレーション済みのモニターとまったく同じ場所に配置し、トリマーを調整して、キャリブレーション済みのモニターにできるだけ近い SPL vs Freq が得られるようにします。
A1

-M シリアル番号 81233015 の場合: トリマーは周波数に作用します:

- RT200: ツイーターの一般レベル: クロスオーバー F1: 3500 Hz これはハイパス フィルターです。
- RTA : 990 Hz
- RTB: 11400 Hz
- RTC: 17300 Hz:

各チューニング ポイントは、イコライザーのような一種の「バンプ/ディップ」を作成します。